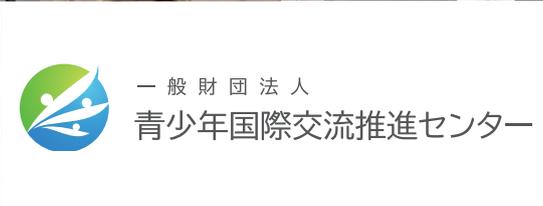


国際交流活動ニュース

# MACROCOSM





CENTERYE

30<sup>TH</sup>

ANNIVERSARY

Center for International Youth Exchange

CONTENTS

一般財団法人青少年国際交流推進センター設立30周年記念イベント	3
イスラームを知ろう！～UAE現地体験モニターツアー～	7
2024年度 統計・DX次世代リーダー交流事業	8
統計職員招聘事業 運営支援	9

# 一般財団法人青少年国際交流推進センター 設立30周年記念イベント

2024年7月12日、東京都千代田区の都市センターホテルにて、一般財団法人青少年国際交流推進センター設立30周年記念イベントを開催し、75名が参加しました。第1部は、ウェアラブル脳波計等の開発を手掛けるEMOTIV製品開発担当副社長のウルディス・レイタッツ氏による基調講演、第2部では交流会が実施され、参加者相互が懇親を深める機会となりました。

## ■理事長挨拶(抜粋)



一般財団法人青少年国際交流推進センター

理事長 駒形 健一

一般財団法人青少年国際交流推進センターは、1994年に設立されて以来、内閣府の国際交流事業を始めとして青少年育成のための様々な国際交流活動を実施してきました。

設立後四半世紀が経った2020年、理事長に就任したと同時にコロナ禍に突入し国際交流そのものが厳しい状況に陥りましたが、その困難をスタッフと共に乗り越え、今日、無事に30周年の節目を迎えることができました。30年の間に推進センターを取り巻く環境が大きく変わる中で新たな取り組みを開始し、推進センターを担っているスタッフも新しい世代が中心になりました。

今日は、この30年という節目を迎え、希望ある未来に向けて新しい出発をするという思いを込めて記念イベントを開催いたしました。

今後も時代の変化に対応して新たなチャレンジをしていきたいと考えていますので、皆さまの応援のほどよろしく申し上げます。

## 式次第

第1部 基調講演	
16:30	開会 主催者挨拶(一財)青少年国際交流推進センター理事長 駒形健一
16:33	来賓ご挨拶 アンジェイス・カシェヴスキス 駐日ラトビア共和国大使館参事官兼次席官
16:38	(一財)青少年国際交流推進センター紹介
16:45	基調講演 テーマ:「次世代リーダー×統計×交流」 講師:ウルディス・レイタッツ氏 EMOTIV 製品開発担当副社長、内閣府「国際青年育成交流事業」参加青年(2006年)
17:45	閉会
第2部 交流会	
18:00	開会
18:05	乾杯・挨拶(一財)青少年国際交流推進センター理事長 駒形健一
18:15	来賓紹介、スライドショー投影、歓談
19:15	中締め(一財)青少年国際交流推進センター理事 大河原友子
20:00	閉会





(一財) 青少年国際交流推進センター 30年のあゆみについて紹介する本田温子事務局長

第1部の基調講演に先立ち、本田温子事務局長が(一財) 青少年国際交流推進センター(以下、推進センター) 30年のあゆみについて紹介しました。以下にその紹介内容とウルディス・レイタツツ氏による基調講演一部抜粋を掲載します。

## ■推進センター30年のあゆみ

推進センター(CENTERYE)は1994年に設立され、以後30年間にわたり、国際交流を切り口に青年を育成する場を提供し、多くのグローバルリーダーを輩出してきました。これまでの実績は、100か国、24,000人(日本及び外国青年)に及びます。主な事業は、総理府/総務庁、内閣府の国際交流事業ですが、外務省、ASEANセンター、民間団体などとの連携で組織を発展させてきました。

## ■発展の経緯

マイルストーンを挙げると、4つのステージがあります。創業期に当たる最初の10年間は、主に総理府/総務庁の招へい事業、国内プログラムの運営を積極的に行いました。少人数のスタッフでスタートしましたが、日本青年国際交流機構(IYEO)のボランティアのみなさんと共に事業を拡充発展させてきました。IYEOと共にプログラムを提案し、新規事業を実施したのが成長期にあたるまさにこの頃です。事後活動組織の活性化、多様な分野の青年リーダーを育てる事業を実施したことで、地域に根づくリーダーの育成につながりました。

成熟期には、内閣府だけでなく、外務省、外国政府等の主催事業を実施し、それまでに蓄積したノウハウを活かして、青年たちが参加できる国際交流事業を増やしてきました。

第2創業期ともいえる2020年頃には、パンデミックの影響で事業規模は縮小し、オンライン事業の実施、助成金活用など、「国際交流」という組織名の団体としては大変厳しい時期となりましたが、この間も国際交流事業を切り口とした青年育成の可能性を信じ、事業再開までの間に組織のアップデートをしようと職員一同で協議する場を重ねました。

## CENTERYE 30年の歩み



### 創業期

1994年 4月21日設立  
石川 忠雄 会長  
山田 肇司 理事長



- 1999年
- ・日中招へい
- ・日韓招へい
- ・「東南アジア青年」・「世界青年の船」国内プログラム

### 成長期

- 2001年
- 21世紀ルネサンス青年リーダー招へい
- 2002年
- 青年社会活動コアリーダー育成プログラム
- 2007年
- 日本・ASEANユースリーダーズサミット共催

### 成熟期

- 2008年・2009年
- 外務省JENESYS日中韓青少年交流
- 2013年
- 一般財団法人へ移行
- 有馬 明人 会長
- 上村 知昭 理事長
- 2015年
- 上村 知昭 会長
- 川上 和久 理事長

### 第二創業期

- 2020年
- 上村 知昭 会長
- 駒形 健一 理事長
- コロナ禍でのオンライン事業
- 「イスラームをろうろ!」セミナー
- 2023年
- Sinfonica 統計職員招へい

## ■推進センターのこれから

交流事業が実施できなかった期間に、「なぜ推進センターが国際青年交流事業をしているのか」「本質的なねらいは？」について皆で考える場を持ちました。そうしてたどり着いたミッションが、「国際交流を通じて、若者とよりよい世界を作ります」です。

未来を担うリーダーにふさわしい人材の育成を目的に掲げて推進センターを設立し、30年を経て、育成された青年たちがどんな世界を作るのかを思い描いた時、多様な人々を包括しつつ、それぞれの「よりよい」に向けた変化を起こすこと、それを「Youth」を中心に据えていくことこそが推進センターの役割であると改めて認識しています。



詳細はCENTERYE WEB  
サイトをご覧ください。

## ■複雑な社会課題に向き合う

グローバル化が急速に進む現代社会においては、社会課題が複雑に絡み合い、一つの切り口では課題解決できない状況にあります。センターとしても、この流れに適応していくために、これからの青年育成の視点で何が必要かを考えるヒントとして、「次世代リーダー：統計×DX×交流」をテーマとした講演を企画しました。講師には、ラトビア出身のウルディス・レイタッツ氏をお招きしています。

レイタッツ氏は、統計データの可視化を簡易に作成できるサービスを提供するスタートアップ企業Infogramの創業者で、現在はウェアラブル脳波計等を開発する米国バイオインフォマティクス企業EMOTIVの副社長を務めておられます。レイタッツ氏は2006年度内閣府の「国際青年育成交流事業」の参加青年でもあります。これまでのご経験から、次世代リーダー育成を考える際にぜひ取り入れたい視点についてお伺いしました。

基調講演 テーマ

次世代リーダー：統計 × DX × 交流

登壇者 Uldis Leiterts 氏



ラトビア共和国出身の起業家であり、技術開発者。

データの視覚化や分析を行うスタートアップ企業Infogramの創業者として知られる。インフォグラフィックスを簡易に作成できる同名サービスは、世界中に600万人のユーザーを抱える。現在は、ウェアラブル脳波計などを開発するバイオインフォマティクス企業EMOTIVの製品開発担当副社長を務める。

ヨーロッパおよび北アメリカ、アジアの市場向けの技術開発部門において上級管理者として20年以上の経験を持つ。

学生時代にはラトビアと日本の学生の交流を目的とした非営利団体を設立・主宰。2006年度内閣府「国際青年育成交流」事業の既参加青年。

## ■基調講演の一部抜粋

ラトビアの統計とオープンデータについてですが、統計とは情報を収集すること、オープンデータはその情報を一般公開することです。あらゆる文書にアクセスできるようにすることは、民主主義にとって重要です。ラトビアは日本と同様、分散型統計システムを採用しており、政府機関や団体が独自データを収集し、内部システムで公開しています。今回、日本の統計局を訪問し、多くの共通点があることが分かりました。EU諸国では、統計プロジェクトに関し、各国で協力しています。例えば、クロアチアのGSシステムやスウェーデンのデータベースを活用して恩恵を得ています。

政府がデータ活用のために多額の投資をするのは、物事がオープンであれば、政府の責任が明確になり、透明性によって国民から信頼を得られ、民主主義が機能していることを国民に示せるからです。

私は政府を信頼しています。信頼できる国を代表するのは素晴らしいことです。私たちが参加しているNextStatX（統計・次世代リーダー交流事業）や国際青年育成交流事業（INDEX）は、CENYERYEが運営支援しています。このようなプログラムが青年リーダーを育成し、次世代を生み出すことになります。この度、テクノロジーを活用している様々な企業を訪問しましたが、私たちが普段行っている業務と似ていたので、将来、興味深いものを生み出せるのではないかと思います。ラトビア人と日本人が互いの言語や経験を学び、より多くの企業がこうした交流から恩恵を受けることを願っています。



Photo: Emotive.com

### レイタッツ氏が当日会場に持参したEmotiv社の製品紹介

写真の脳波解析ワイヤレスヘッドセットは、ユーザーが感じたり考えたりした際に脳内で生じた信号をセンサーで集め、ワイヤレスでPCへ送ることができる。例えば、瞑想の効果を数値化して示したり、VRゲームでのプレイヤーの集中度を測ったり、認知症の進行具合を調べ、リハビリ効果を検証したりするなど様々な用途がある。





## イスラームを知ろう！ ～UAE現地体験モニターツアー～

(一財) 青少年国際交流推進センター (以下、推進センター) は、2020年以降、多様性の理解促進の一環として「イスラームを知ろう！」名で各種セミナー・イベント (有識者講義・料理教室等) を15回実施、参加者数は累積380名超となっています (24年11月時点)。その中、参加者から現地体験型プログラム実施の要望を受け、2025年度からの本格実施を目指し、2024年5月3日 (金)～5月8日 (水)、一般参加者4名とセンター職員によるモニターツアー

を実施しました。



ハムダなおこ氏

日程	プログラム	場所
5/3 (金)	オリエンテーション	ドバイ
	「世界青年の船」事業既参加青年との交流夕食会	
5/4 (土)	シャルジャ イスラーム文明博物館	シャルジャ 他
	日本UAE文化センター (日本語学習生徒との交流)	
	家庭訪問 (日本語学習生徒宅、「世界青年の船」事業既参加青年宅)	
5/5 (日)	マングローブセンター見学	カルバ
	野生生物保護区見学	
5/6 (月)	宇宙航空局見学	ドバイ
	アルアイン宮殿博物館見学	
	アルアイン・オアシス (デーツ農園) 見学	
5/7 (火)	アブラハムファミリーハウス見学	アブダビ
	エミレーツパレス見学	
	カスルアルワタン (大統領官邸内迎賓館) 見学	
	シェイクザイドグラウンドモスク見学	
5/8 (水)	ドバイ女性協会による講義「UAE女性の一生」	ドバイ
	オールドスーク見学	
	パームジュメイラ見学	
	送別会	

本ツアーは、推進センターと内閣府青年国際交流事業既参加青年であり著名な作家であるUAE在住のハムダなおこ氏 (日本UAE文化センター代表) と共同企画し、現地旅行社 (Zanobia Tourism社) により催行されました。

現地でのハムダなおこ氏による詳細な説明に加え、同氏が運営する日本UAE文化センター日本語学習生徒との交流 (含む家庭訪問)、「世界青年の船」事業既参加青年OB/OGとの交流、ドバイ女性協会におけるセミナー受講、宇宙航空局、デーツ農園、大統領迎賓館をはじめとした各種文化施設訪問・見学等が実施され、通常の観光旅行では体験が難しい数々のイベントを通して参加者の満足度も非常に高いものとなりました。帰国後、6月26日には一般の方にも参加いただいてオンライン報告会を実施しました。



# 2024年度 統計・DX次世代リーダー交流事業 NextStatX2024

2024年7月2日(火)～14日(日)、初の試みとして、「統計・DX次世代リーダー交流事業」を公益財団法人統計情報研究開発センター(以下、シンフォニカ)と一般財団法人青少年国際交流推進センター(以下、推進センター)にて共催し、6名の研修生を受け入れました。対象研修生は、統計職員に限らず、交流事業既参加青年やIT/DXに興味を持つ青年と幅を広げ、対象国は、世界有数のデジタル先進国で、シンフォニカ理事石橋民生氏が在大阪ラトビア共和国名誉領事をされている縁でラトビア共和国としました。参加者募集や大阪プログラム作成に関しては、関西日本ラトビア協会から格別のご協力をいただきました。

## 事業の趣旨

ITスタートアップが多く育ち、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の分野においても先進的なラトビア共和国の青年を日本に招へいし、統計やデータサイエンス、DXなどに関する互いの国の取組みについて情報交換及び討議することで、統計やDXなどの分野における両国の発展に寄与することを目的としています。また、地域の人々との交流や文化体験を通じて日本への理解を深め、将来にわたってラトビアと日本のかけ橋として指導性を発揮できる青年を育成することを目指しています。



関西日本ラトビア協会理事らと懇談する青年団

日程		研修内容
7月3日	水	オリエンテーション、統計講義
		内閣府 自見特命担当大臣表敬
		歓迎夕食会
7月4日	木	総務省統計局訪問、統計博物館見学、統計講義
		国立感染症研究所訪問
7月5日	金	立正大学熊谷キャンパス データサイエンス学部、授業見学、昼食交流会
		講演:「気象観測衛星ひまわり画像解析」、ゼミ学生発表
		川越市 自由散策
7月8日	月	デジタル庁内見学、講義、デジタル大臣表敬
7月9日	火	大和ハウス工業株式会社 DX講義
		在大阪ラトビア共和国名誉領事表敬
		関西日本ラトビア協会との昼食会
		NEC FCH Kansai見学
7月10日	水	京都 文化・歴史見学 (金閣寺、保津川下り、嵐山)
7月11日	木	奈良 文化・歴史見学 (法隆寺、中宮寺)
		大和ハウス総合技術研究所・石橋信夫記念館
7月12日	金	青少年国際交流推進センター設立30周年記念イベント
7月13日	土	成果発表会、修了式、送別昼食会



デジタル庁で日本のDX状況の理解を深める



顔・虹彩マルチモーダル生体認証用の写真撮影をする



国立感染症研究所にて研究員の説明を聞く



京都にて川下りを体験



法隆寺にて集合写真

# 統計職員招聘事業 運営支援

公益財団法人統計情報研究開発センター（以下シンフォニカ）は、アジア・アフリカ諸国の統計職員（公的統計の企画、データ収集・処理・分析・提供に従事する中堅職員）を日本に招へいし、日本の公的統計システムの視察・学習を通じて、研修生自国の公的統計発達に貢献することを目的とした事業を2018年より実施しています。（一財）青少年国際交流推進センター（以下、推進センター）は2023年アセアン・南アジア諸国統計職員招聘事業より運営支援として参画しています。

## 第2回 アフリカ諸国統計職員招聘事業（金丸三郎記念国際交流事業）

2024年4月15日（月）～4月27日（土）、アフリカ8か国（エチオピア、ガーナ、マラウイ、モーリシャス、ナイジェリア、セーシャル、タンザニア、ザンビア）から9名の研修生が訪れ、東京、京都、奈良、名古屋にて、統計関係情報講座、表敬訪問、関連施設視察等を行いました。



熱心に講義を受ける研修生

日程	研修内容
4月16日 火	開講式、歓迎昼食会、オリエンテーション、講義
4月17日 水	総務省統計局長表敬、統計博物館見学、講義
4月18日 木	(独)統計センター理事長表敬、施設見学、講義
4月19日 金	講義
4月22日 月	京都 文化・歴史見学(二条城、太秦映画村)
4月23日 火	京都 文化・歴史見学(金閣寺、高台寺) 大和ハウスグループみらい価値共創センター「コトクリエ」
4月24日 水	奈良県庁地方統計業務講義 奈良 文化・歴史見学 (奈良公園、東大寺)
4月25日 木	名古屋 文化・歴史見学 (JR東海リニア・鉄道館)
4月26日 金	講義、修了式、送別昼食会



地方視察で京都府を訪れ、二条城唐門前で集合写真を撮る

## 第4回 アセアン・南アジア諸国統計職員招聘事業（石橋信夫記念国際交流事業）

2024年8月26日（月）～9月13日（金）、アセアン・南アジアの15か国（バングラデッシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム）から15名の研修生が訪れ、東京、千葉、京都、奈良を訪れました。研修生は、東京では主に総務省統計局で講義を受講し、関連施設を視察、地方プログラムでは日本文化への理解を深める機会もありました。



各国の研修生が自国の統計活動を発表する



(独)統計センターの施設を視察する

日程	研修内容
8月27日 火	開講式、歓迎昼食会、オリエンテーション、講義
8月28日 水	総務省統計局長表敬、統計博物館見学、講義
8月29日 木	(独)統計センター理事長表敬、施設見学、講義
8月30日 金	総務省統計局 講義
9月2日 月	総務省統計局 講義
9月3日 火	総務省統計局 講義
9月4日 水	総務省統計局 講義
9月5日 木	北区 区長表敬、地方統計業務講義 文化施設見学(王子神社～茶道体験、渋沢栄一史料館、国立印刷局東京工場)
9月6日 金	SIAP副所長表敬、講義 千葉 文化・歴史見学(葛西臨海水族園) 京都 文化・歴史見学 (二条城、金閣寺)
9月9日 月	京都 文化・歴史見学 (太秦映画村) 奈良 文化・歴史見学 (奈良公園、東大寺、筆作り)
9月10日 火	大和ハウス総合技術研究所・石橋信夫記念館 大和ハウスグループみらい価値共創センター「コトクリエ」
9月11日 水	文化・歴史見学(JR東海リニア・鉄道館)
9月12日 木	講義、修了式、送別昼食会

# (一財) 青少年国際交流推進センターの 「ビジョン、ミッション、バリュー」を紹介します。

## OUR VISION

### 国際交流を通じて、若者と共により良い世界を作ります

To create a better world together with youth through international exchange

## OUR MISSION

【私たちは以下を提供します】

1. 異文化交流と成長の機会
2. 価値観・人生を変える瞬間
3. 国・文化・地域・世代を超えたネットワーク作りの場

We provide :

1. opportunities for cross-cultural interaction and youth development
2. Life-changing experience
3. networking opportunities beyond borders, cultures and generations

## OUR VALUES

【大切にしていること】

1. 若者の可能性を信じます
2. 多様性を尊重します

We value :

1. believing in youth
2. celebrating diversity

【強み】

1. 延べ50か国以上・1万人以上が参加した国際交流運営実績
2. 日本と世界に広がるネットワーク
3. 豊富な国際経験を有する専門性の高いスタッフ

Our values: :

1. We have extensive experiences of organizing international exchange programs; the total accumulated number of participants has risen to 10,000+ from over 50 countries.
2. We have local and global networks.
3. We have diverse human resources with a wide range of expertise and professional experience.



詳細はCENTERYE WEBサイトをご覧ください →

## 今月の表紙

今年、推進センターが協力・主催したさまざまな事業で撮影された一枚を集め、推進センターの活動や交流が感じられる瞬間を選びました。多文化が交差し、理解と絆が育まれる場面を通して、推進センターの役割を改めて感じていただければ幸いです。



## MACROCOSM 1月号 vol.134

2025年1月31日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 一般財団法人 青少年国際交流推進センター  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町  
2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<https://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 日本青年国際交流機構 (IYEO)

定 価 215円 [本体195円]

印刷所 株式会社シナノパブリッシングプレス

TEL: 03-5911-3355 FAX: 03-5911-3356

私たちは  
「誇れる仕事」を  
実践します



私たちは、未来に向けた課題と常に向き合い、  
新たな可能性と価値をそこに発見し、  
お客さま、地域の皆さま、パートナーの皆さまの  
期待を超える感動をお届けします。

 **東武トップツアーズ**  
官公庁事業部

〒108-0075 東京都港区港南 1-8-15 W ビル 18 階 TEL 050-9014-8423



## 思いは、大海原の彼方へ。

憧れていたあの島へ、小説で読んだあの渚へ、思い出のあの港街へ。  
お客様の思いを乗せて、美しい海へと旅をする、にっぽん丸のクルーズ。  
スタッフの笑顔と、おいしいお料理、エンターテイメントでおもてなしします。

撮影：三好 和義

○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。 ※営業日・営業時間は変更・短縮、もしくは延長される場合があります。

商船三井クルーズ ☎0120-791-211 <https://www.nipponmaru.jp>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-18 ヒューリック虎ノ門ビル 11 階